



兵庫県議会議員 内藤 兵衛

県政NEWS
No.33 2019.7

一日生涯

「一日生涯」は、内藤兵衛議員の座右の銘です。今日の一日を生涯と心得て、全力を出し切るという思いを込めています。

地域創生を軌道に乗せる

兵庫県議会議員 内藤 兵衛

5月1日から元号が「令和」となり、新しい日本がスタートしました。県議会では春の県議会議員選挙で当選、県民からの負託を受けた86人による新議会が6月11日から始まりました。

私も4期目。県議選では結果的に対立候補が現れず無投票当選となりましたが、有権者の皆様の信任を得たものとして、改めてその責任の重大さを痛感しています。

皆様の激励、そして温かいご支援に心から感謝し、初心を忘れず、座右の銘「一日生涯」を胸に刻み込んで精進していくことをお約束します。

自民党議員団幹事長に就任

令和の未来拓く舵取り役



幹事長室のメンバーと 幹事長

山積する課題を乗り越えて 団を取りまとめる幹事長に選任されました。3名の副幹事長(山口晋平氏、筆頭、福島茂利氏、五島壮一郎氏)とともに県当局との事業の執行状況、県政課題への対応、その推進方向など

いくためには、まさに県民一人ひとりが危機感を共有し、一丸となって地域の元気づくりに邁進していかなければなりません。その先導役として県民の声、夢や希望を政策にし、実現して参ります。

進めることが可能なことから、受け入れることは出来ず、無所属議員の賛同を得て、副幹事長ポストをおさえることができました。幹事長として大きな役目を果たすことができたと感じています。

今後他党派との緊迫したやりとりが続くと思いますが、多様な意見を受け入れ、合意形成を図りつつ、県政最大会派として如何なる逆境にも負けず議員団がスクラムを組んで、県政運営をリードしていかなければなりません。その舵取り役として、これまで3期12年間で培ってきた経験、知識、人的ネットワークを生かしながら、広い視野を持って全力を傾注していく決意です。

3期目4年間を振り返って見ますと、地域創生をスタートさせ、試行錯誤を繰り返しながら、人口減少下においても地域の活力を持続させる様々な施策を市町と県とをつないで展開

今年度はポスト県政150年のスタート、新たな県政ビジョン兵庫2030年の展望で掲げた「すこやか兵庫」に向かつて進む第一歩の年です。この重要な時に自民党議員

新任期初となる第344回定例県議会の初日(6月13日)に行われた正副議長選では、他会派から副議長ポストを第2会派へという申し入れを受けていましたが、正副議長を自民党議員団が務めることで安定した議会運営、そして議会改革をスピード感をもって

令和の時代、西脇多可、兵庫、そして日本の明るい未来を拓くため、ともに走り続けましょう。



新議会による定例県議会。右側半分が自民党議員団。最後列中央が私の議席です

ふるさとの元気を次世代に

「農」と「食」の魅力づくりなど展開



地域の魅力を生かし、交流人口の拡大を図ります

地域企業見学バスツアーの実施やハローワーク・市町・経済団体と連携したマッチング機能の強化と情報発信により、若者のU・J・ターンや地域内定着を促進します。

2019(令和元)年度、兵庫県では健全で元気な「すこやか兵庫」の実現をめざし、びょうご五国」の豊かな個性を生かした施策を推進しています。西脇多可をはじめとした北播磨では、「農」と「食」の魅力づくり、交流・環流人口の拡大、ふるさとに誇りを持ち地域を担う人材の育成といったプロジェクトを行い、「元気な北播磨」の創造に取り組んでいます。

特産農産物等育成促進事業として、黒田庄和牛等の安定的な子牛の生産を図る飼育管理技術の改善指導や分娩システムの導入、播州百日どり等のブランド化の推進による販売拡大と生産振興を図ります。

また、「農」と「食」、地場産業等の地域資源を組み合わせ、北播磨の魅力体験するツアーを実施。JR鍛冶屋線廃線から30年を迎えるにあたり、年間を通してイベントも開催します。

さらに、高校生ふるさと活性化事業として地域の高校生が地域住民や他の高等学校と連携・協働して行う世代間交流など、ふるさとの活性化につながる取組を支援します。

高校生を対象とした地域企業見学バスツアーの実施やハローワーク・市町・経済団体と連携したマッチング機能の強化と情報発信により、若者のU・J・ターンや地域内定着を促進します。

* Topics *

西脇消防署
多可出張所
竣工



西脇消防署・多可北出張所(加美区)及び多可南出張所(八千代区)の竣工式が3月30日、執り行われました。いずれも住民の悲願でもあった24時間体制での消防防災施設です。

地域創生実現へ県市町連携を

総務常任委員会に所属

今年度は総務常任委員会に所属しています。重要課題である地域創生の推進を担っており、県内外の先進事例を調査・研究し、実効性ある取り組みにつなげることが主要テーマです。また、次期地域創生戦略の策定に向け、これまでの課題と成果を検証し、積極的に意見、提言を行います。市町を支援する「ひょうご地域創生交付金」は、町への交付額の倍増を知事に要請したところ今年度から1億円(市:1.5億円)になりました。来年度以降の交付金事業の継続等も含め、地域の実情に応じた事業展開を求め、県・市町連携による故郷の活性化をめざします。

内藤ひょうえ兵庫を衛(まも)る

社会基盤整備プログラム策定

県政の1丁目1番地といえるのが安全安心の確保です。地域創生の礎とも言えます。厳しい財政状況にあっても防災対策や県民生活、交流人口の増に欠かせない道路事業など社会基盤整備を着実、計画的に進める必要があります。昨年夏、県内を襲った豪雨や台風などでも社会基盤施設が効果を発揮しました。実際に杉原川や野間川での河川対策や郷ノ瀨川砂防堰堤の整備により、安心して暮らせるとの声を数多く聞き、社会基盤施設の重要性を再認識しました。一方、道路や河川の維持管理など生活に密着した社会基盤施設の維持管理を求める切実な声

も多数聞いています。社会基盤整備に対する県民ニーズに応え、安全安心の確保のため、定例県議会における一般質問や委員会審議、知事への政策提言など、さまざまな機会を通じて県当局等関係機関に要請してきましたが、今年度県当初予算においては投資的経費を約2割増額し、安全安心の確保に重点が置かれた内容となりました。適正・効率的に執行されるようチェックして参ります。投資事業を計画的、効率的に推進するため、このほど社会基盤整備プログラムが策定されました。西脇市、多可町内では約40事業が実施されます。

計画期間=前期:2019~2023年度、後期:2024~2028年度

県民の安全安心の確保へ

西脇市新庁舎・市民交流施設の完成イメージ図



県は地域創生支援事業として、令和3年春の完成をめざしている西脇市新庁舎・市民交流施設を核とした賑わいづくりに取り組みます。

新庁舎・交流施設へのアクセス性の向上と、まちなか(中心市街地)の活性化を図るため国道427号(西脇道路(上野))及び西脇上戸田線(西脇道路(東本町工区))の拡幅、西脇三田線の上野~下戸田間に歩道を設置、下戸田では交差点改良を行います。



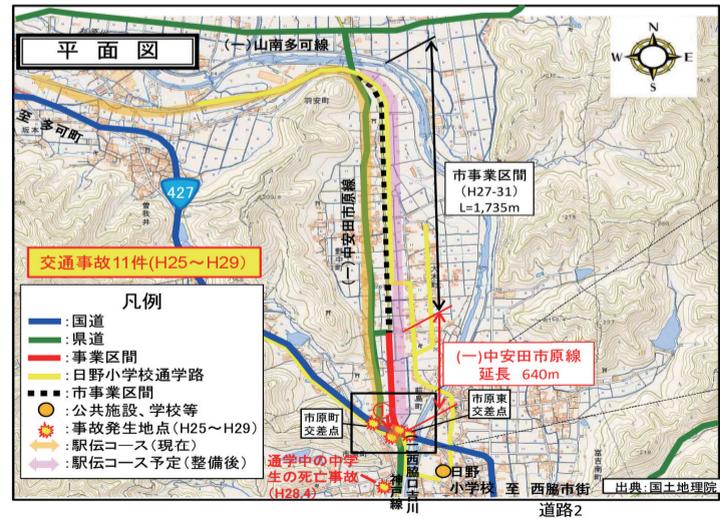
西脇市新庁舎・市民交流施設周辺の計画

地域創生支援事業 西脇新庁舎・市民交流施設を核に賑わい創出

着々と整備が進んでいます



一般県道・中安田市原線(西脇市大木町~市原町)の市原東交差点改良事業が着々と進んでいます。交差点付近では渋滞が発生するとともに、交通事故が多発しており、早期に同線と国道427号とのくい違い交差点を十字交差点に改良するよう求めていたものです。今年中に完了する計画で、円滑かつ安全な交通の確保に加え、西脇市が整備する区間と同時供用し、バイパス機能を発揮することで、より大きな効果が期待できます。



渋滞を解消、交通事故防止 中安田市原線・市原東交差点を改良